

早稲田大学オープンカレッジに参加

－ 松平忠固公の関良基教授講座に－

上原 昇（２組）

関東同窓会の赤松小三郎研究会事務局長の〇さんから上田藩主で江戸幕府の老中を二度務めた松平忠固公に関するセミナー（早稲田大学オープンカレッジ）があることを知らされました。

同期の布施修一郎君（６組）が忠固公の顕彰で活動中であることも耳にしています。

折角の機会なのでそのセミナー（講座）に参加することにしました。

主催は早稲田大学エクステンションセンター中野校で、講座名は『幕末老中松平忠固と日本の近代化』、講師は同窓の関良基さん（86期、拓殖大学教授）です。

関さんは松平忠固に関する書籍『日本を開国させた男 松平忠固』（作品社、2020年刊）も執筆していて、この分野の第一人者です。（下図参照）

講座は2月5日から2月26日までの毎週木曜日、計4回開催で、各回のテーマは、

第1回は『日米和親条約と松平忠固』

第2回は『日米修好通商条約と松平忠固』

第3回は『不平等条約神話を検討する』

第4回は『小栗忠順 vs 大英帝国』となっています。

私は早大出身ですが、中野にキャンパスがあることは、今回初めて知りました。

中野駅から徒歩10分、キャンパスというより高層ビルが目的地でした。【次ページ写真】

初回の2月5日の教室には受講者が18名ほど集まりました。

殆んどが年配者の中で、上田高校同窓で現役大学生のKさんも参加していました。

関さんの話（赤松小三郎や松平忠固などについて）はこれまで色々な場所で何度も聞いていますが、今回初めて知ったこともありました。

印象的な話では、天保7年の大飢饉の時に、忠固は他の領から米を調達して飢餓民を救ったそうで、真田町で忠固への感謝の書軸が新発見されたとのことでした。

天保14年、時の老中水野忠邦を批判して寺社奉行を失脚、安政2年には徳川斉昭と対立して老中失脚と起伏の多い人生を歩んでいるのも忠固公らしさといえます。

当時としては外国との交易を積極的に推進しようとした開明的な藩主の忠固ですが、その

血筋は子や孫にも引き継がれ、4 男の松平忠厚は米国に渡り鉄道・土木技術者として活躍、孫のキンジロー・マツダイラ（松平欽次郎）は米国で初の日系市長（元メリーランド州エドモンスター市）となっています。

講義は、関さんから受講者にクイズ形式の質問が出されたり、受講者から専門的な意見が披露されたりして、歴史好きな人たちにとっては有意義なひと時となりました。こうした機会を通じて、松平忠固の人物像（知名度）と事績が世の中に広がることを期待したいと思います。

次回以降の講義も楽しみです。



講師の関良基さん



早稲田大学エクステンションセンター
中野校

（2026 年 2 月 6 日 記）

以上